2017年4月号「vol.82」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-10-6　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-751-7600

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

子ども・子育て支援、ラグビーW杯・東京五輪など促進
神奈川県議会県民・スポーツ委関係の予算

国や自治体では4月から2017年度1年間の事業が始まりましたが、これに先立ち神奈川県では3月24日の県議会定例会の本会議で県の予算案が可決採択されました。私が委員長を務めている県民・スポーツ常任委は、広聴から国際交流、私学、次世代の育成、消費生活と県民生活、スポーツ、2019年開催のラグビーW杯大会、2020年の東京五輪・パラリンピック大会の関連事項などまで、幅広い分野を担当しています。予算のうち同委員会関連の予算と注目点となる事項について紹介します。

2017年度一般会計当初予算は1兆9402億円ですが、県民局関係の予算は前年度より31億円余少ない1487億円です。こうしたなかで子どもや子育て支援関係での前向きな施策が注目されます。スポーツ局関係の予算は前年度より7億1514万円多い22億5720万円です。とりわけラグビーW杯、東京五輪・パラリンピック開催に向けての準備作業が活発化してきたことがうかがえます。これらのうちのいくつかを取り上げてみると―。

■子ども・子育て支援の充実化促進＝幼児期の教育・保育提供体制の確保・充実をはじめこの分野の予算は432億円。年間2回行われている保育士試験を神奈川県独自で行う1回を加えて3回に増やす、保育エキスパート等の養成―といった新規事業にも取り組む。待機児童解消の促進では新たに、地域型保育事業（0～2歳児対象）の卒園児の受け皿となる連携施設を、保育所・認定保育園に加え幼稚園も対象とし、拡大を図る。

■子ども自立生活支援センターの開設＝4月、平塚市片岡に開設。情緒、発達、知的の障がいを抱えた子どもを総合的に支援するため心理・医療等のケアが出来、入所機能を持った施設。乳児院、障害児入所施設、児童心理治療施設が併設され、3部門一緒の施設は県内で初めてとなる。

■ラグビーW杯大会に向けた取り組み＝5億円余の予算を付けた。横浜市との共同事業や県内の市町村・企業等との連携を図り、関連イベント、PRなどを行っていく。

■東京五輪・パラリンピックに向けた取り組み＝5億1891万円を計上しているが、このうち江の島でのセーリング競技大会のための準備・施設整備費が7960万円。事前キャンプの誘致を図るため相模湖漕艇場を整備するなどこの一帯のスポーツ・観光拠点づくりも進める。

スポーツの大会がらみということではほかに、2018年1月の国体アイスホッケー競技開催費、県内で2021年開催予定の高齢者スポーツ大会（全国健康福祉祭）に関連する推進費も計上されている。

コレが言いたい！

子どもの貧困や虐待、待機児童問題などは喫緊の課題であり、引き続き対策を講じていく必要があります。また、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される本県には多くの観光客が来訪する事が予想されます。国際交流や文化芸術振興を所管する県民局とスポーツ局の両局が連携し、予算以上の効果をあげる事を期待します。

今月のひと言

平成21年に焼失し、吉田茂元首相が晩年を過ごした「旧吉田茂邸」が再建され、平成29年4月1日から公開されることになりました。公開時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）入場料：大人500円、中・高校生200円、小学生以下は無料

磯子 あれ？これ？

洋光台第三小学校

昭和46（1971）年に開校した洋光台第一小学校に通う児童数が増えたのを機に洋光台第三小学校の建設が始まり、昭和48（1973）年9月4日に分離独立開校しました。開校当時の児童数は589人でピーク時の昭和53（1978）年は1,258人が通っていました。今は各学年2クラスの291人となり、そのうち約6割の児童は隣接する港南区日野団地地区から通学しています。このことからも、洋光台地区の高齢化、人口の減少が見てとれます。

憲法学者の木村草太氏（TV朝日、報道ステーション木曜コメンテーター）も同校の卒業生です。第三小にはケヤキの大木があり、同校児童がケヤキの葉をモチーフにデザインしたキャラクターがつくられ、「ケヤパ」と名付けられています。集会や運動会、遠足等の行事名のあたまにケヤパをつけて各学年が混ざり合いの「たてわり活動」がおこなわれています。

また、10年ほど前から地域の人の指導により、俳句の授業がおこなわれています。毎年、全国ジュニア俳句コンクールに応募していますが、約2万通の応募の中から同校の児童が平成26年優秀、27年入賞として選ばれました。

小学生の部優秀作品：そら豆の 話ききたい さやの中（6年生女子）

参考：学校長・地域の方の話、参考資料：わたしたちのまち・40周年記念誌

活動報告

山岳
スポーツセンター

指定管理者制度導入の「山岳スポーツセンター」と「相模湖漕艇場」の現地調査を行いました。山岳スポーツセンターは高さ15メートルの斜度可変式の国内でも数少ない本格的屋外クライミングウォールを有する施設です。

また、今月オープンした子どもの自立を一体的に支援する子ども自立生活支援センター「きらり」の開所式に出席しました。

「子ども自立生活支援センター」開所式

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成27年4月　県議会議員2期目当選
- ●県民・スポーツ常任委員会委員長
- ●社会福祉審議会委員

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-751-7600